

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100053		
法人名	医療法人 禄寿会		
事業所名	グループホーム 小禄		
所在地	沖縄県那覇市小禄5丁目16番地1		
自己評価作成日	平成24年 6月 7日	評価結果市町村受理日	平成24年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigekensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100053-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaigekensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4790100053-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成24年 7月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの気持ちに配慮しながら、安心して生活して頂けるように取り組むとともに、入居者が主体となれる活動を目指しています。  
また、入居者本人の希望や状態に沿った活動や環境が提供できるようにチームで取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内事業所が同居する建物2階に平成19年に開設し、周辺には一戸建て住宅や高層集合住宅、近くには小川もある環境となっている。職員の異動等で活動の縮小もあったが、現在は管理者を中心に入居者の「自己決定」を尊重した支援を目標に、食事や外出等を実践している。中でも、入居者の「食への拘り」には外食や出前等を入居者に負担のない形態で応えている。また、入居者の介護サービス利用に関係する書類等を、行政側の助言を得ながら整備し制度改正への対応も図っている。サービスの質の向上を目指し、法人内や事業所で実施している研修は、管理者等が職員の理解と現状で即実践できるよう資料等を工夫して提供し、職員からは「解りやすい」と好評を得ている。更に、管理者との面談や休憩時間の確保等、職員の相談や勤務に対する仕組を整備し、職員が働きやすい環境作りにも前向きに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人ひとりが主体となれるサービスの提供ができるように、理念についてチームで話し合いを行い、実践につなげている。	理念は、開設時に入居者が発した言葉を繋げてまとめている。理念を基に介護ケア方針を掲げ、今年度は、「入居者の自己決定」への支援に取り組んでいる。理念は事業所内に掲示し、職員は、毎月のミーティングで理念について確認し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事がある際、入居者の希望の確認をしながら参加している。	住宅街にある店舗に、毎朝入居者と一緒に朝食のパンを買いに出かけたり、大型店舗での買物、カラオケ等地域の社会資源を活用している。また、地域のエイサーの道じゅねーに家族と出かけたり、家族が関係するボランティアの訪問等はあるが、入居者等が近隣住民と交流の機会や場をこれまであまり得ていない。	地域密着型サービスの意義を踏まえ、運営推進会議委員等の協力を活かし、地域で入居者が安心して生活が継続できるよう、法人事業所とも連携し取組んでほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティア、実習生の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動実績、ヒヤリハット、平均介護度について報告を行っている。	運営推進会議は定期に開催し、事業所側から事故内容と対策、活動状況等を報告し、委員間で意見交換をしている。法人からも参加し、事業所内のハード面の課題について捉える機会となっている。また、サービス評価結果を報告した記録や、会議開催の規定等書類等の充実に取組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市へケアプラン、アセスメントなどの提出を行う際、アドバイスを貰い確認して頂いています。また、運営推進会議では市担当者に参加をお願いしており、取り組み状況について相談させて頂いている。	事業所で実施している介護サービスについて申請する際に、行政窓口を訪問し制度改正や提出書類等の助言を得ている。運営推進会議に行政担当者は交替で参加して会議内容の共有を図っている。また、地域包括との連携や、介護サービス事業所の勉強会の要請等で意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各居室の環境を見直しながら、身体拘束解除に向けて取り組みを行っている。	事業所は、契約書で身体拘束の方針を明示し、入居者の居室環境を工夫し対応している。管理者は法人内の身体拘束委員会に企画等で参加し、職員に対しては、事業所内で権利擁護等について解りやすい勉強会を実施している。また、職員との面談時に「言葉」の拘束についても説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、常にチーム全体で意識するように心がけている。		

沖縄県(グループホーム 小禄)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度からの取り組みで、権利擁護担当者を職員から選出し、全職員対象に勉強会開催や、職員が都度アドバイスが得られるように相談窓口としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間を取り丁寧に説明を行っている。また、家族の不安や疑問点についても聞き取るように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の活動、年間行事も含め、利用者の意見を直接聞き取り、実践に活かしている。家族の要望については、2ヶ月に1回の運営推進会議、家族交流会を通じて要望の確認をしている。	入居者の意見は日々の支援の中で、家族の要望等は担当者会議や訪問時、運営推進会議等を把握の機会としている。例えば、家族から「誕生日を一緒に祝いたいのでは日曜日に変更してほしい」や、「前年度より行事が少ないのでは？」等の意見に職員間で検討し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングの他、管理者により個人面談を行っている。また、介護リーダーが各職員の意見をまとめ、管理者と調整することも行っている。	事業所内では、職員個々の意見をまとめる介護職会議と全体会議を開催している。全体会議では、勤務体制や管理者不在時の自己報告や対応等を議論している。また、「看取りケア」の受入を、事業所の方針であっても受入体制等を考慮し、その都度職員間で検討することとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の導入、労働衛生安全委員会、労使協議会の導入により、働きやすい環境づくり、労働条件の見直しなどにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会担当者を中心に、法人や委員会で企画された勉強会を活用しながら介護リーダーによるOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会へ加入している。また、外部の研修会参加を活用しながら他事業所との情報交換に利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、生活歴や生活状況の把握に努めている。また、本人が不安に思っていることについても傾聴し、安心して生活して頂けるように関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入に至る経緯や、ご家族の思い、要望についての確認を行ない、サービス提供につなげられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談で、本人や家族の思いや状態を確認し、必要なサービスについて情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりのニーズに合わせて生活の中で役割りが持てるように取り組みを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や家人対応での病院受診でホームへ来所される際には、できるだけ居室担当者が対応し、家人との信頼関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	清明祭や正月、大晦日などの行事だけでなく、日頃から家族が関わり続けられるように支援している。	入居者の情報を基に、市街地周辺をドライブしながら馴染みの通りを散歩したり、母校周辺の風景や学校名の垂幕の見学等、個々の繋がりを大切に支援している。また、入居者が職歴を發揮できるよう、職員はコミュニケーションの中に職歴を絡める等の工夫を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係に配慮した配慮を行ない、交流が図りやすいように配慮している。必要に応じて職員も積極的に関わられるように心がけている。		

沖縄県(グループホーム 小禄)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も状況の確認や、サービス利用の確認を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの中での役割りや活動、食事のメニューなども含め、本人の希望、状況に合わせて提供を行っている。	入居者の「自己決定」を尊重し、個々の発した言葉の背景を大事に少ない意見にも応えるよう努めている。「週末に美味しい物を食べたい」には外食の機会を、表出が困難な場合は家族等の情報を参考に、入居者の「好きな食事時間」を把握した対応等、それぞれの思いを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から生活歴や仕事歴などの情報を確認し、支援に至るまでの経過について把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握し、できること、やりたいことを生活の中で発見し、全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人から要望の確認を行ない、その情報をもとに介護職と計画作成担当でケアカンファレンスを実施している。担当者会議では、家人、管理者同席でプランの説明を行っている。	介護計画は、入居者の意向や家族の要望等を把握して作成している。担当者会議には入居者も参加し、担当職員の意見や情報等も参考に計画内容を検討している。また、モニタリングは6か月毎に実施し、入居者の状態等の変化や更新時の見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録、訪問看護記録、業務日誌などに気づき、工夫についての記録を行ない、申し送りで報告することにより、日々の活動へ反映されるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場のニーズに対応して活動につなげるように柔軟に対応を行っている。		

沖縄県(グループホーム 小禄)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーやコンビニ、ボーリング場やカラオケ、食堂などを利用し、地域との関わりや交流がもてるように工夫を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、訪問看護との連携を図り、適切な医療提供に努めている。病院受診時、必要に応じて家族と共に職員が同行もしている。	入居前からのかかりつけ医を継続して受診したり、入居者、家族の希望で法人の病院を受診し健康管理を行っている。受診時は職員がリフト車での送迎支援を行うこともある。かかりつけ医へは文書で情報提供し、受診後は家族から口頭で報告を受け情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携し、週1回は看護師による体調チェックを行っている。必要に応じて、看護師から助言、相談をもらい早期の受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、居室担当者、計画作成担当者、管理者で連携しながら、病棟へ出向くようにしている。また、必要に応じて病棟看護師、ワーカーへ情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアの希望がある場合には、主治医、訪問看護師、家族を交えて話し合いを行い、意思確認同意書を家族に記載して頂いている。	重度化や看取りケアについて事業所は方針を明確にし、契約時や入居者の状態変化時に話し合いを持ち方針を共有している。マニュアルが作成され研修を実施しチームで支援できるよう取り組んでいる。今年3月には、主治医、訪問看護、家族と連携し看取りケアを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。また、訪問看護師により勉強会の開催を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設のデイサービスと合同で消防訓練を年2回実施している。	法人内建物に同居するデイサービス事業所と5月に合同で、消防署の協力の下、火災発生時の避難訓練を実施している。事業所内の災害時対応の設備機器は設置しているが、避難誘導等への地域の参加協力は得ていない。	災害時に入居者の安全が確保できるように年2回の消防訓練の実施と、地域との協力関係が築けるような取り組みが望まれる。

沖縄県(グループホーム 小緑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人、家族から要望があれば、可能な限り同性介助で対応を行っている。	入居者の自己決定を大切にするケアを心がけている。洗濯物たたみや食事作り等入居者の能力や好きなことを見つけ活躍の場を持てるよう支援している。入居者が尊厳ある暮らしを続けて行けるよう権利擁護について勉強会を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自己決定を促し、ニーズに合わせたサービスが提供できるように声かけ、関わり方に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムや体調などの状況に合わせて、活動へ参加して頂けるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要に応じて、おしゃれ着などの着脱しにくい衣類については、着脱の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗い、下膳、テーブル拭き、調理の一連の作業について、本人の好みや能力を活かしながら、活動として提供している。 また、外注で出前をとる場合は、複数の店舗の注文表から自由に選んで頂くなど、食事を楽しんで頂けるように取り組みを行っている。	事業所内の台所で3食を調理し、職員も入居者と同じ食事を摂っている。朝食のパンや出前等、入居者が好みの物を選んで食べる楽しみを大切に支援を行っている。野菜嫌いで便秘傾向の入居者に野菜ジュースを作って工夫する等、薬に頼らず改善できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理をする際には、できるだけ多くの種類の食材を利用して調理ができるように心がけている。 また、入居者から好みの味付けについてアドバイスをもらうなど、摂って頂ける工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをして頂けるように声かけを行い、必要に応じて見守りや支援を行っている。		

沖縄県(グループホーム 小緑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせて促しを行うことで、トイレでの排泄がされている。	排泄チェック表で入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、適宜トイレへ誘導している。排泄の自立に向けた「おむつ外し運動」は現在も継続して取り組んでいるが、トイレ誘導時の職員の声かけと、共用空間に面したトイレ入口のドアの開閉には、入居者へのプライバシーの配慮に至っていない。	入居者への排泄時のプライバシーが確保できるよう、トイレ誘導時の声かけの工夫やトイレのドアの開閉時の十分な確認が望まれる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューの工夫、水分摂取量の確保、適度な運動を確保し便秘の予防に努めている。野菜嫌いの方には、摂り易いように生野菜・果物ジュースを作り、本人の好みの味にすることで美味しく飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間の職員1名体制の時間を除き、本人の希望があれば、その時に入浴できるように努めている。	入浴日を定めず、入居者の希望に合わせて対応している。入居者の状況に合わせて入浴用備品を変えるなどの工夫をしている。入浴拒否の際の促し方の成功例等を記録に残し職員間で共有している。入浴拒否の入居者には足浴や清拭等の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、できるだけ活動に参加して頂けるように促しを行い、夜間はゆっくり休んで頂けるように努めている。夜間、どうしても寝付かれない場合は、居室で過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の内容については、職員で管理している。必要に応じて変更内容について、主治医へ問い合わせをして確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その時の希望に合わせて屋外で活動することが多く、地域にあるカラオケボックスやボーリング場なども希望に合わせて利用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に合わせて、外食、遠出の活動を行っている。別の活動を希望されている方には、個別での活動を提供している。	外出等の活動は職員が予め情報を提供し、入居者一人ひとりの発言を参考に目的地を決めている。例えば、入居者の発言が本人の好きな事や地域等場所に繋がる場合は、該当する目的地を外出先としている。また、日常の買物や遠足、花見等は家族の協力を得て支援している。	



沖縄県(グループホーム 小緑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持については、家族了解のもとで本人に所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をやり取りされている方は、現在入居されていない。電話については、職員が必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適度な明るさを保ち、利用者の関係性に配慮した配席を行っている。	既存の建物を利用している上、災害時対応の規制もあり共用空間の備品等の配置が限定されている。壁一面には、入居者の遠足等の外出やボランティアの活動写真等を掲示している。ソファが配置されているがあまり活用されていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファが設置されており、一人で過ごせる居場所が確保されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具などを持ち込んで頂き、入居者本人が過ごしやすいように配慮している。	居室にはベッドやタンスを備え、入居者の状況によって安全やプライバシー配慮への工夫を施している。家族の写真や思い出の物が話題に上る等、入居者一人ひとりに合わせた居室作りを家族と協力を得て支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下に手すりの設置がされており、安全に移動できるよう配慮されている。		